

『神とのフェアな関係、人とのフェアな関係』 <beyond hardshipS>

聖書箇所： ルカによる福音書24章13節～32節

- 13：ちょうどこの日（復活の日）、ふたりの弟子が、エルサレムから11キロメートルあまり離れたエマオという村にいくとちゆうであった。（14）そして、ふたりでこのいっさいの出来事について話合っていた。
- 15：話し合ったり、論じ合ったりしているうちに、イエスご自身が近づいて、彼らとともに道を歩いておられた。
- 16：しかしふたりの目はさえぎられていて、イエスだとはわからなかった。
- 17：イエスは彼らに言われた。「歩きながらふたりで話し合っているその話は、何のことですか。」すると、ふたりは暗い顔つきになって、立ち止まった。（18節～24節は省略）
- 25：するとイエスは言われた。「ああ、愚かな人たち。預言者たちの言ったすべてを信じない。心の鈍い人たち。
- 26：キリストは、必ず、そのような苦しみを受けて、それから、彼の栄光に入るはずではなかったのですか。」
- 27：それから、イエスは、モーセおよびすべての預言者から始めて、聖書全体の中で、ご自分について書いてある事がらを彼らに解き明かされた。
- 28：彼らは目的の村に近づいたが、イエスはまだ先へ行きそうなお様子であった。
- 29：それで、彼らが、「いっしょにお泊りください。そろそろ夕刻になりますし、日もおおかた傾きましたから。」と言って無理に願ったので、イエスは彼らといっしょに泊まるために中にはいられた。
- 30：彼らとともに食卓に着かれると、イエスはパンを取って祝福し、裂いて彼らに渡された。
- 31：それで、彼らの目が開かれ、イエスだとわかった。するとイエスは彼らには見えなくなった。
- 32：そこで、ふたりは話し合った。「道々お話しになっている間も、聖書を説明して下さった間も、私たちの心はうちに燃えていたではないか。」

メッセージ骨子：

<序論> 神はご自分の独り子、イエス様を下さるほどに私達を愛して下さった。イエス様は人間の赤ん坊として家畜小屋に生まれ、生きた模範を示し、説教し、奇跡を起こし、最後は一人の犯罪者として十字架の上で死んだ。でもイエス様が死んでくださった事で、私達の罪は赦され、完全な自由と完全な命を得ることが出来るようになった。中でもすばらしいのはイエス様の死が死で終わらず、肉体をもってよみがえったこと。これがイースターです。どうか今日、これを誰かの作った空想話としてではなく、本当の事として受け取ってください。イースターなくして、30億のキリスト教会は存在し得ないからです。

<ポイント1> イエス様とお出会いすると「私たちの目が開かれる」

ふたりの弟子は、イエス様のことを救い主、世の希望と信じていたのに、その最愛の人を、むごい十字架刑で失いました。その心の折れた2人の弟子達にわざわざ時間をとって、ともにわびしい田舎道を歩くために、復活のイエス様は来てくださいました。それは落ち込んだふたりの目を開くため、そしてもう一度生きる希望を与えるためでした。30節、31節に「イエスはパンを取って祝福し、裂いて彼らに渡された。それで、彼らの目が開かれ」とあります。あなたの目が開かれ、イエス様を見ることが出来るように、イエス様の声を聞き、そしてイエス様をお迎えすること出来るようにと、主は願っておられます。

<ポイント2> イエス様とお出会いすると「生きる力と希望があたえられる」

私達はたとえ大勢の中にも孤独を感じる場合があります。しかし32節に「道々お話しになっている間も、聖書を説明して下さった間も、私たちの心はうちに燃えていたではないか。」とあるとおり、イースターを、イエス様の復活の物語を、あなたの物語にすると、イエス様ご自身があなたに近づき、心に燃えるものを下さいます。イエス様は、あなたのために死んでくださった方、あなたを信じ、ありのままのあなたをよしと下さり、いつもあなたのそばにいてくださる方。そしてなにより主は、「私があなたの救い主であることを知ってほしい」と願っておられます。

<ポイント3> イエス様とお出会いすると「祝福が流れ出す」

他者を攻撃して破壊する。努力しても報われないとぼやく。そして平気で人を自殺に追い込む。この「呪いの時代」に私達が生きていくには、祝福すること以外に方法はありません。まず欠点だらけの自分をそのまま受け入れて自分を愛し祝福し、同時に他者をも同じように祝福するのです。でもそれが出来る大前提は、自分のどうしようもない部分（罪）を、全部主がしよいこんで、十字架で処理して下さったという確信です。イエス様に、あらゆる人間関係に介入していただき、私達が受けた十字架の祝福を他者へ流しだす。この祝福の連鎖こそが、現代社会に蔓延する「呪い」からの、唯一の脱却方法です。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」（ヨハネ3：16） 以上